

■令和２年度第４回会津美里町観光まちづくり推進協議会議事録

日時：令和３年２月１８日（木）１５：００～

場所：会津美里町役場本庁舎２階 ２０５会議室

出席委員：石原直委員、伊東広子委員、高梨宣浩委員、長谷川洋一委員、柴崎陽委員
長谷川祥子委員、渡部茂樹委員

事務局（産業振興課）：課長 金子吉弘、課長補佐 小林隆浩、係長 小林正裕、
主任主査 石黒芳孝

１．開会

〈高梨副委員長〉

２．委員長挨拶

〈石原委員長〉

- ・委員会も大詰め、今までの集大成として進めていきたい。

３．議事

（１） 後期観光振興計画の前回からの主な変更点について

- ・（事務局より、資料をもとに変更点を説明）

（２） パブリックコメントについて

- ・（事務局より、資料（別紙１・２）をもとに説明）

〈委員長〉

- ・P11の個別目標で現況値がゼロの表記のものについて。例えば、モニターツアーの参加人数や観光大使の登録数。ゼロの理由に「実施しなかった」など注釈をつけないと、何もしていないという印象を受けてしまうのでは。昨年度はコロナでできなかったという理由もあるはず。

〈事務局〉

- ・現況値として挙げているので、ゼロとしている。表記方法を変え、注釈を加えたほうがより分かりやすいのでそのように対応したい。

〈委員〉

- ・パブリックコメントについて。十年以上前、宿泊業界で果実酒の一斉摘発があり、ワインと果実酒は別の扱いだった記憶がある。提案自体は考慮すべき内容だが、ワインなの

か、果実酒なのか明確にした方がよい。

- ・新鶴ワイナリーのオープン前に、会津地方のどぶろく特区の4事例を視察した。会津のどぶろくは現在、ほとんどが失敗しており、観光資源にはなっていない。特区を設定するのならばある程度見込みを持たせたい。議論をする必要がある。

〈委員長〉

- ・確かにワイン特区の考え方自体は面白いが、組織がないと機能しない。
- ・この計画が承認された場合、アクションプランの実施主体との個別の打ち合わせ・説明が必要になるが、それについてはどう考えているか。

〈事務局〉

- ・観光協会が進行することが多いので、行政として支援していく。
- ・他の団体についても、観光まちづくり推進体制の中で協議し、進めていきたい。

〈委員〉

- ・パブリックコメント No.1 の指摘に加えて。伊佐須美神社の入込客数を本編 P11 で※3 として示すだけならば、参考資料 P12 の入込客数データを掲載する意味はあまりないのでは。

〈委員長〉

- ・参考資料で他市町村と比較しても、伊佐須美神社の数値が突出している。脚注がないとその意味が分かりにくい。実態を表していない印象を受ける。

〈事務局〉

- ・他地域の寺社での例で、カメラを設置した実態調査や、1㎡あたりの人数から全体を算出する方法など、工夫しているものもある。カメラを設置した実態調査はローコストで実施可能。
- ・今回の計画内では、実態が把握できていないため、脚注での説明にとどめたい。

〈委員長〉

- ・ワイン特区についてアイデアは面白いが、何か意見はあるか。

〈委員〉

- ・アイデアは面白いが、5年、10年と長く続ける必要がある。
- ・観光と直接結びつかないが、環境の変化などで収量が伸び悩んでいる現状がある。余剰が確保できてない。

〈委員〉

- ・（別紙２について）りんご、梨、桃などの栽培が盛んだと記載されているが、そういった印象はなかったので驚いている。

〈委員〉

- ・ワインと果実酒（各果物ごと）の許可はそれぞれ別だと考えられるため、簡単ではないのでは。
- ・県内では二本松市にワイン特区がある。
- ・どぶろくの場合、２キロリットルという制限がなく、酒瓶１本から可能。
- ・新鶴でもワイン特区について議論した。２キロリットルの制限を考慮した場合、採算があまり見込めないため、特区にこだわる必要はないという結論に至った。

〈委員長〉

- ・このご時世、通販が盛んである。振興公社の通販サイトの品揃えは季節によって大きく変動する印象を受ける。通年で販売できるものはないか。

〈委員〉

- ・供給がおぼつかない事情がある。次年度は農産物に絞り、定期的に発売できるよう取り組んでいる。

〈委員長〉

- ・通販は、商品だけでなく町そのものをPRするための重要なメディアになりうる。いずれ、アクションプランのどこかに組み込めればよい。

〈委員〉

- ・昨年、ゲルを導入したことでキャンプ場の入込客数が増加した。その観光客にさらにファンになってもらうべく、メルマガ配信などを行っている。通販では、母体数をいかに増やすかが重要で、そのための取り組みである。
- ・（別紙２について）「町の申請への取り組み」と記載されているが、町の動向や計画の内容に関わらず、特区認定に前向きな人が積極的にやることが重要。

〈石原委員長〉

- ・今後は実績を上げていく必要があるので、具体的な策も考え、推進していくようにしたい。

(3) 計画表紙（案）の選定について

〈事務局〉

- ・委員からの投票によって、4つのデザイン案から計画表紙を選定したい。

〈事務局〉

- ・投票の結果、案1が3票、案2が1票、案3が2票、案4が1票ということで、表紙は案1のデザイン案で進めていく。

4. その他

（事務局より事務連絡）

5. 閉会

〈副委員長〉

- ・以上で協議会を終わります。

以上